

基準 1

浦添グスク周辺の歴史的地区にふさわしい佇まいに配慮した素材を使用するように努める。

背景

浦添グスク周辺地区の中での仲間地区は、浦添の中の浦添（ドゥームラ）とも称され、浦添グスクをクサティ森(ムイ)として古くから今日まで本市の中心地として発展してきました。集落背後のクサティ森(ムイ)や御嶽(ウタキ)、拝所(ウガンジュ)、樋川(ヒージャー)などの歴史的・地域的資源が暮らしにいきづいています。歴史的な地域地区として赤瓦や琉球石灰岩等の地域性をあらず素材を効果的に活用していくことが、美しい街なみを保全・創出していく上で大切な事となります。

方策

素材については、できるかぎり自然な、土に還元される材料を使用します。また、屋根、壁、外構などには、地域の材料（琉球石灰岩や赤瓦等）を利用することで、年月を重ねるとともに風格のする素材の活用も考慮します。

*キーワード（手がかりとなる言葉）

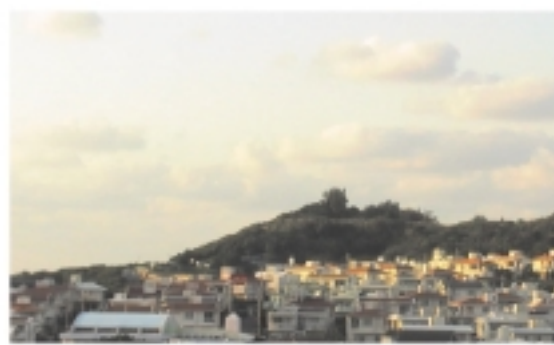
- ・ 地域素材の活用 …… 基準 2
- ・ 浸透性のある舗装材 …… 基準 3



緑の稜線を保全し、地域の素材である赤瓦等で街なみを修景していくと美しい街なみが形成されます。



一部整備された、歴史の道から幼稚園と奥に中学校を望んだ景観。赤瓦屋根が重なり美しく見えます。(仲間)



緑の稜線を保全し、地域の素材である赤瓦等で街なみを修景していくと美しい街なみが形成されます。(豊見城市 渡橋名)

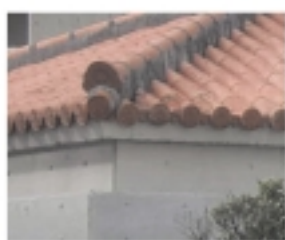
基準2

赤瓦や琉球石灰岩など地域性をあらわす素材を効果的に活用し、浦添グスク周辺にふさわしい素材の活用に心がけることとする。

キーワード	地域素材の活用
	地域性をあらわし、浦添グスクにふさわしい素材として、赤瓦や灰色瓦、琉球石灰岩やあわ石等が上げられ、それらは年月を重ねるとともに風格の感じられる素材となっています。 建物においては、鉄筋コンクリート造やコンクリートブロック造が一般的に普及しているため、それらとの組合せでもって効果的に演出します。地域素材の活用は、沖縄の風土を現し、味わい深い景観をもたらしてくれます。 その他、地域素材として、琉球ガラスがあり、小窓や表札として色鮮やかさと独特な風合いが広く支持されています。また、花ブロックは、亜熱帯地域の沖縄では、強い日差しを遮り、通風を確保することができる雨端的な空間を形成できるため同様に多く用いられています。 仲間はグスクの森が残る伝統集落地区であるため、その風景に馴染まない素材の利用（アルミやステンレスを多用したモダンな意匠、スペイン瓦等）は控えましょう。

■浦添グスク周辺にふさわしい素材

古くから沖縄の地域素材として赤瓦、灰色瓦、琉球石灰岩、あわ石等が上げられますが、それらを仲間地区の素材として使用することで歴史ある地区として、格式ある街なみの形成に努めます。素材はできるだけそのものを活かすことが大事なのですが、御影石等のように、地域の素材では無い材料については配慮が必要となります。また、金属、ガラス、タイルなどの反射率の高い材料は大量に使用する事を控え、使用するさいは周辺に配慮した計画とするように努めます。



赤瓦



灰色瓦



琉球石灰岩



あわ石

灰色瓦とはセメント瓦ではなく、焼物の高麗瓦（コウライカワラ）を表し、ようどれ館を建設する際に跡地から出た瓦で、それも歴史や仲間地区らしさを表すと考え、基準に定めています。

■地域素材を活用した住宅



赤瓦葺きが伝統地域としての格調を高めます。

コンクリートの表情を変えて曲線の意匠を強調

花ブロックが適度な通風と開放性をもたらしてくれます。

県産である「あわ石」を塀として利用し、見慣れた景観を形成しています。

T字路にある石蔵當（イシガントー）が歴史性、場所性をあらわしています。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

2.(4) 素材

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更



塙の修景（仲間地区）

赤瓦を塙に載せ、小割りした赤瓦の廃材を波型に貼り付けることで、通りに表情を持たせています。



通りの修景（北中城）

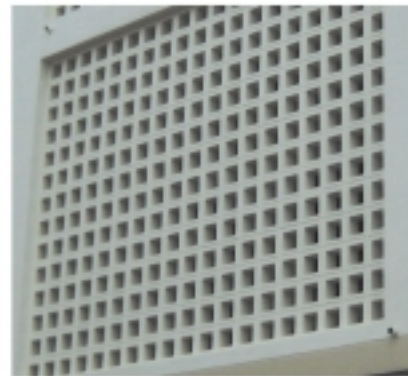
赤瓦を排水溝の一部として活用し、石灰岩を縁に用いて景観として眺めると東屋と排水溝の瓦が面と線として対比しながら同じ素材により調和しています。

■周囲に調和し配慮した素材の使用

ルーバーや花ブロックも、日差しが強い沖縄では、日差しを返（サエギ）り、通風を確保することができる地域風土を表す素材として重宝されますが、それが過度になりすぎると、その周りの風景や地域から浮いた形になってしまうため、使用する場所、形態、規模については十分な注意が必要となります。



沖縄の気候風土にあう、日差しをさえぎり、通風を促す意匠となっているが、伝統地域には、合わない形態・意匠となっています。（仲間）



花ブロックを使用し沖縄の気候風土にあう空間を形成しています。



琉球ガラスは表札や飾り窓等にも愛用されています。

基準 3

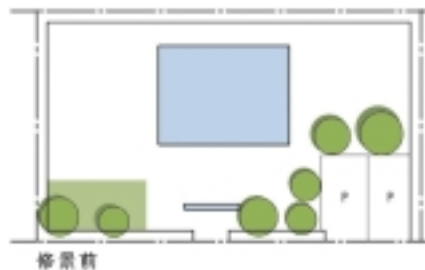
外構の舗装は、積極的に浸透性のある材料を使用するよう努める。

キーワード 浸透性のある舗装材

近年ではコンクリートやアスファルトにより覆われた敷地、舗装路等が目立つようになってきており、無機質な空間が多くなってきています。

そのため浸透性のある舗装材を使用することで、舗装材の隙間から植物等が育ち、温かみのある通りや外部空間が形成されます。また、夏を涼しく過ごすための工夫でもあり、雨水を少しでも地下に導くことで、井戸や川へと、水の循環等にも繋がっていきます。

■浸透性のある舗装材の使用



修景前



修景後

庭や駐車場を積極的に緑化することで涼しい環境となります。



無機質な駐車場で、夏は照り返して近寄り難い空間となります。



石畳と緑化ブロックにより、味わいのある外構となっています。



緑溢れる潤いのある駐車場。



石畳として、修景し風情のある路地。

基準 1

浦添グスク周辺の歴史的地区にふさわしい佇まいに配慮した緑化に心がける。

背景

仲間地区は、浦添の中の浦添(ドゥームラ)とも称され、浦添グスクをクサティ(ムイ)として、古くから今日まで本市の中心地として発展してきました。
集落背後のクサティ森(ムイ)や御嶽(ウタキ)、拝所(ウガンジュ)、樋川(ヒージャー)などの歴史的・地域的資源が今も暮らしにいきづいています。
仲間地区は、古くから建築物と自然(緑)との深い関わり合いがあり、これからもそのきずなを維持しなければなりません。

方策

仲間地区にとって、クサティ森(ムイ)の緑や集落内の木々等を生かしながらか緑化・修景し、豊かな自然環境になじむようにしていくことは大事です。クサティ森(ムイ)と一体に歴史を感じさせる風景とします。

*キーワード(手がかりとなる言葉)

- ・ 垣間見える庭 …… 基準 2
- ・ 緑化された駐車場 …… 基準 3
- ・ 緑地の確保 …… 基準 4
- ・ 通りへの演出 …… 基準 5



■ 仲間地区の現状



境界を高いブロック塀で仕切り、潤いを感じられない。これを、生垣や石垣などを使用するとよい。

■ 塀・敷地内緑化



塀・敷地内緑化の例
塀を緑で覆うことで、通りに潤いを与えています。



既存の緑と一体となった緑化が歴史性、地域性を表出します。

基準2

柵・塀等は低く抑え生垣、緑化などを行い、日だまりとゆとりを確保するよう工夫する。

キーワード 垣間見える庭

昔ながらのむら・まちでは敷地内の花緑が垣間見える風景が美しいとされていました。道路と宅地にはとても重要な関係があり、道路沿いに高い塀を設けた場合道路に対し圧迫感を与え日が当たらない場所ができますが、塀等を低く抑えることで日だまりができます。垣間見える庭が、奥ゆかしい空間となり歩く人と住人を適度に結びつけてくれます。

■塀を低く抑え緑化



少し庭が見える塀の高さとする、敷地内の樹木が見え道を歩く眺めはよくなります。



■生垣



■道路面の敷地に高低差がある場合



高い塀を緑化することで、圧迫感を軽減します。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

基準3

屋外駐車場は、舗装材やパーゴラなど積極的に駐車場緑化に努める。

キーワード 緑化された駐車場

一家に一台以上の車が必要になった現在、車庫の見えない屋敷はほとんどありません。宅地の玄関先には必ず車庫や駐車スペースが通り前面に現れてしまいます。そのため、道路からの車庫の見え方が重要になります。

背後にクサティ森（ムイ）を擁する仲間地区は、緑化された駐車場とクサティ森（ムイ）が一体になり歴史を感じさせることは歴史的地区を保全する為に重要なことです。

駐車場スペースも庭の一部として、植生ブロックなどで緑化し、車が出掛けているときも潤いのある空間とします。パーゴラによる屋根の緑化も効果的です。

■芝ブロックで緑化している例



庭の延長とも思わすような駐車場で、通りに対し潤いを与えています。



広い駐車場では、植生ブロックや樹木を植えることで潤いを効果的に与えます。

■パーゴラで緑化している例



上部の庭とパーゴラが一体となった緑化



駐車場入り口を緑化することで、潤いがあります。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

基準 4

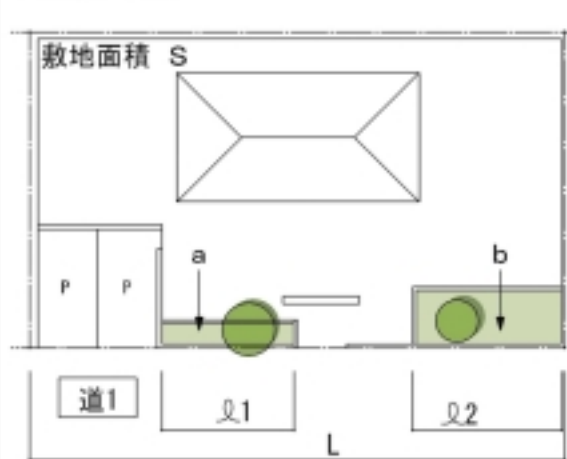
原則として敷地面積5%以上の緑地を設けることとし、それらを間口の1/4以上に配置するよう工夫する。

キーワード 緑地の確保

伝統的民家は、周囲に木を植え台風から家を守ってきました。そのため緑豊かな通りとなっていました。個々の敷地が通りに対して緑地の確保をし、それぞれの緑が周囲と穏やかにつながっていくように計画すると、クサティ森（ムイ）と一体となった潤いのある通りとなるでしょう。地場植物を積極的に植えていくことで、仲間地区の地域性をだします。壁面緑化などを施し、緑溢れる通りを演出します。また、緑を広い視野で捉えた、緑視率（見た目の緑の量）や緑被率（緑の覆う量）についても考慮が必要です。

■緑地率の算定例

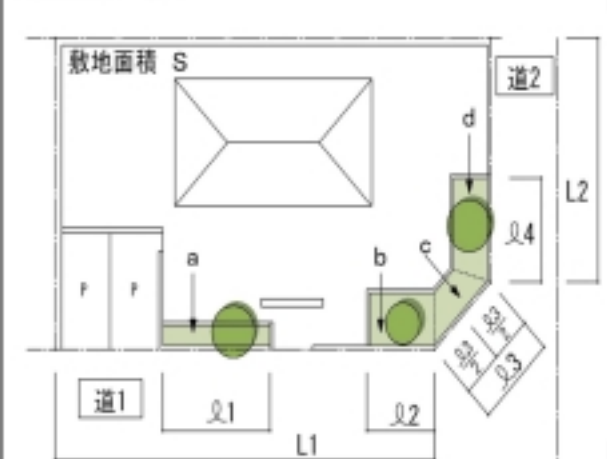
1 面道路の場合



●必要な緑地面積 $S \times 5\% < a + b$

●必要な間口の緑地距離 $L \times 1/4 < (l_1 + l_2)$

2 面道路の場合



$S \times 5\% < a + b + c + d$

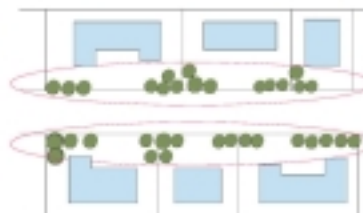
$(L_1 + l_3/2) \times 1/4 < (l_1 + l_2 + l_3/2)$

$(L_2 + l_3/2) \times 1/4 < (l_4 + l_3/2)$

■緑でなじむ境界



塀を境界よりも後退し、道路前面に植栽を設けています。

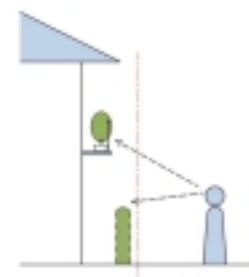


道路前面に緑が連続し、それぞれが穏やかにつながり、潤いを持たすよう計画します。

■緑化の工夫



バルコニーやポーチ、テラス等の緑化も効果的です。



位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

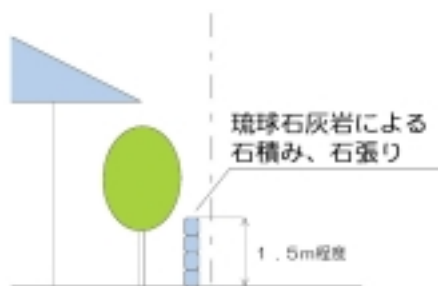
基準5

道路に面する部分の塀は、原則として、敷地面から高さ 1.5m 程度の琉球石灰岩による石積みや石張りで修景したものとするか、敷地面から高さ 0.6 m 以下の琉球石灰岩による石積みや石張り或いは類似の塗装などで修景し、その上部は垣・さく・フェンス等を設置し緑の垣根を設けるよう心がける。ただし、道路面と敷地に高低差が著しくある場合は、その限りでない。

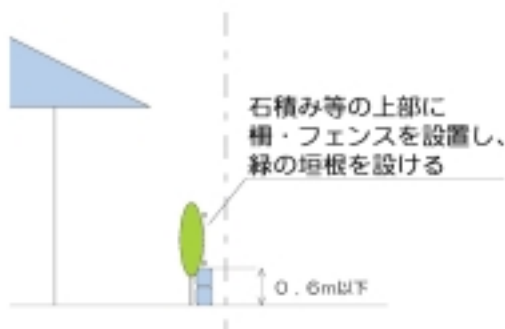
キーワード | 通りへの演出

仲間地区には、浦添グスクがあり浦添グスクの歴史・伝統的まちなみ景観を保全・回復するため古くから用いられてきた素材である琉球石灰岩を使用します。通りの変化の表情を創る塀は、なるべく自然の材料を積極的に利用し仲間地区を表現します。通りへの演出は、道を歩く眺めにとって重要です。狭い道（スーシーグラー）では、生垣を設けると効果的です。

■石積み



■石積みの上に生垣



■石積みの上にフェンス



■幅の狭い通路（スーシーグラー）



ブロック塀ではなく、生垣で境界を仕切ると、心休まり歩いて楽しい通りとなります。

路地の雰囲気をかもし出すように計画します。

基準1-ア

浦添グスク周辺の歴史的地区にふさわしい佇まいに配慮した屋外設備・サイン等とします。

背景

仲間地区では、集落背後のクサティ森(ムイ)や御嶽(ウタキ)、拝所(ウガンジュ)、樋川(ヒージャー)などの歴史的・地域的資源が暮らしにいきづいています。

視点場(市役所)からの眺めから、多くの屋外設備が見受けられ、緑のグスクの景観を阻害していることがわかり、集落内の歩く目線でも多くの屋外設備、鉄塔類、サイン等が飛び込んできます。

方策

地域資源でもある緑の両翼等を屋外設備やサイン等で阻害しないような位置、形態、規模とします。また、屋外設備は通りや視点場からは見えない位置とするか、建築物と一体となる形態や意匠とします。サイン等は煩雑(ハンザツ)とならないよう配慮し、周囲に馴染む色彩や節度ある形態・意匠に配慮します。

*キーワード(手がかりとなる言葉)

- ・ 目立たない屋外設備・・・基準1
- ・ 風景に馴染む鉄塔類・・・基準2
- ・ 節度あるサイン・・・・・・基準3



市役所から見渡し、高架タンクが目立つため、配慮が求められます。(仲間地区)



■高架タンクの風景

沖縄の年間降水量は、他府県に比べ恵まれています。梅雨や台風の時期に偏り、雨の減少に伴い水の供給が不安定となり、毎年のように水不足から、給水制限を余儀なくされ、生活の智慧として高架タンクが普及しています。そんな暮らしの風景にも美的感覚を取り込んだ景観となるよう高架タンクも配慮しなければなりません。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

基準 1 - イ

屋外設備は、露出させないようにし、修景措置を講ずること。
やむを得ず露出させる場合は公共空間から見えにくい位置に設置するよう努めること。

キーワード 目立たない屋外設備

集落背後のクサティ森(ムイ)が地域資源でもあり、仲間地区の美しく特徴ある風景を形成しています。そのため、その風情がより感じられる視点場等の公共空間は魅力を伝える場所であり、そこから望んだ際に、露出した高架タンク等が緑のブスクや稜線を障害しないよう、目立たない位置に設置したり、建築物と一体となった意匠・形態とすることで目立たない屋外設備に努めます。

また、エアコン等の室外機も通りにから目立たない様に工夫が必要となります。

■目立たない屋外設備



高架タンクを隠して、赤瓦屋根で建築と一体化をはかり、屋根の重なりが美しく、多様な表情を創出しています。



住宅においても、目立たない屋外設備とすることで、単体としての建築のみならず、街なみも美しくなっています。



エアコンの室外機等も無造作に露出しており、景観としても良くないため、通りからは見えにくい位置に設置するか、意匠的に隠す等の工夫が必要です。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

基準2

鉄塔類の立地は、できるだけ大規模にならないよう、また目立たないよう工夫する。

キーワード 風景に馴染む鉄塔類

社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するインフラは福祉の向上と経済の発展に必要不可欠であり、公共の財産であるが、その位置、形態、規模については配慮が必要となります。大規模にならないよう検討し、目立たない位置に配置するよう工夫します。形態や色彩も風景に馴染む鉄塔類とすることで、遠くからの景観にも配慮します。また、足元周りは緑化による修景を行い、グスクの森や地域資源等を阻害しないように工夫します。

■鉄塔（遠景）



浦添グスク付近に立ち、遠くからでも目立つ鉄塔。積線に位置しているため景観を阻害している。そのため位置について配慮や工夫が必要。

■鉄塔（近景）



近景では意匠・形態や色彩が目立つため、機能と構造強度を考慮したうえで、最小限の部材で構成し、風景に馴染むように工夫します。

本体の色彩を押さえ、周辺を積極的に緑化します。

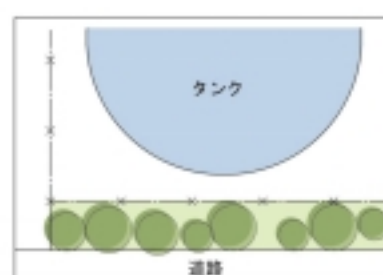
■周辺への馴染んだ色彩

背景よりも低彩度が基本となり、背景との対比が低い色を用いることで自然環境に馴染むことができ、亜鉛溶融メッキ仕上げや茶系統の色とすることでグスクの森との融和を図ります。

■緑化修景

鉄塔やその他の工作物の足元廻りに緑化を行うことで、修景をはかります。

■給水タンク



道路沿いに位置した給水タンクのフェンスが威圧的で無機質となっている。そのため道路との間を緑化したり、タンクにデザイン画や壁面緑化を施したりすることで、和んだ修景を行います。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

基準3

安全性や美観に配慮した節度あるサインとする。

キーワード 節度あるサイン

仲間地区は緑豊かな集落背後のクサティ森(ムイ)や御嶽(ウタキ)、拝所(ウガンジュ)、樋川(ヒージャー)などの歴史的・地域的資源が残されています。

そのため地域資源や伝統集落地域を意識した雰囲気配慮した節度あるサインが求められます。それは、緑の稜線や伝統集落が美しく引き立つサインでもあります。

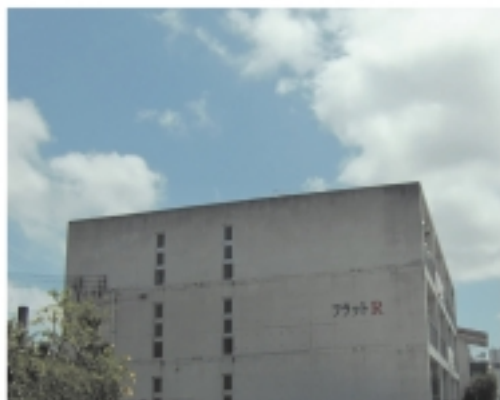
その他、定期的なメンテナンスを行い、長期に渡り美観を維持することも必要となります。

■控えめなサイン



ようどれ館

視点場や公共的な場所は、本市の魅力を伝える場所であるためその場所からの眺めは特に気を付けなければなりません。1 階の入口付近に、低彩度色のサインを設ける等、品位のあるサイン設置に努めましょう。



賃貸住宅のサイン



美観に配慮したサイン

その他

■シーサーのある通り景観



■石敢當(イシガントウ)のある通り景観



T 字路や三叉路に設置される魔よけ。生活の一部でもあり、集落内の構成要素ともなっています。

基準 1 - ア

伝統的な集落の特徴ある地形や地割を活かすよう工夫し、敷地の分割はできるだけ控える。

背景

仲間地区は浦添グスクをクサティ森(ムイ)としているため、高台に位置しており、遠くからでも緑の稜線が望むことができます。また、仲間地区は南西斜面に位置しており、沖縄の気候風土にあった地形であるため、その地形を活かした計画を行います。また、古くから伝わる仲間地区の良さの1つに、地割があり、曲がった道、敷地形状も活かした計画とします。そして、開発による小さく分割された敷地では、石垣、生垣や緑の連続性が築きにくく、地形・地割もいかすことがむずかしくなり、街なみ形成を図ることができなくなるため控えます。

方策

地形を活かすために、元の土地形状をできるだけ残した造成を意識し、切土盛土は必要最小限とし、長大な擁壁を生じさせない工夫に努めます。また仲間地区の地割りは、直線的でない緩やかな形態を特徴としており、それを受け継いだ計画が求められます。そして敷地は最低限 165m² (50 坪) 以上の面積を確保し、生垣や石垣による通りの連続性をイメージした意識が必要となります。

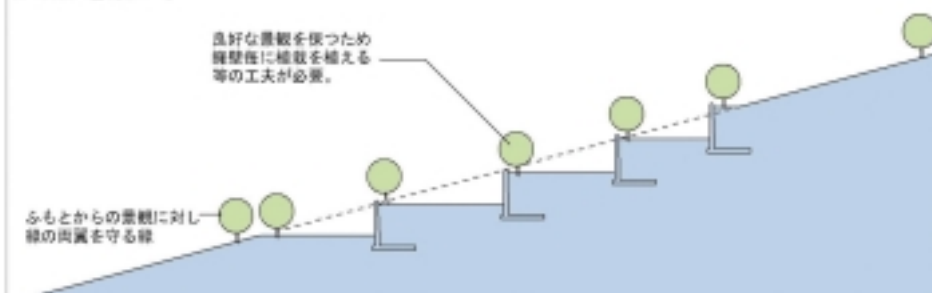
*キーワード(手がかりとなる言葉)

- ・小さな擁壁・・・基準 1
- ・視点場とグスクの緑・・・基準 2
- ・緑地の確保・・・基準 3

■ 南西斜面に位置する仲間地区

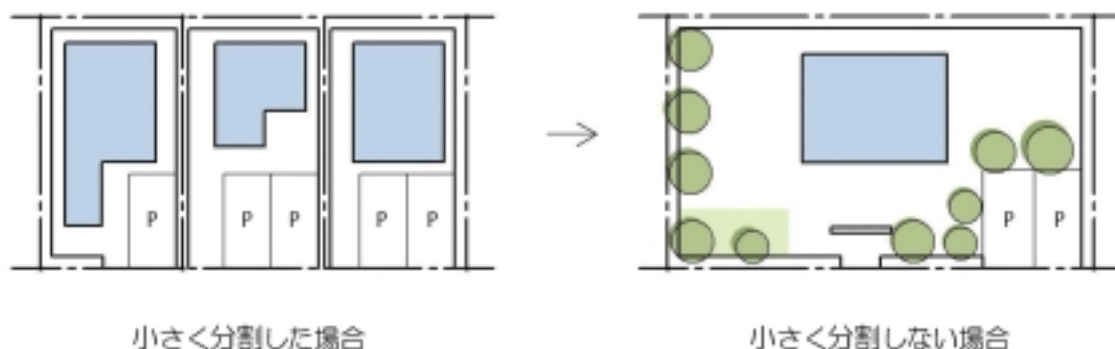
視点場や公共空間からの良好な景観を保つため特徴ある斜面地となるような造成を行いましょう。

○地形を活かす



■ 敷地の小さく分割を控える

敷地を小さく分割すると、緑地空間が減少し、間口が狭くなると駐車場の必要性から石垣や生垣等もできなくなり、通りの表情が形成できなくなるため、小さく分割を控え、伝統地域としての街なみづくりに努めましょう。



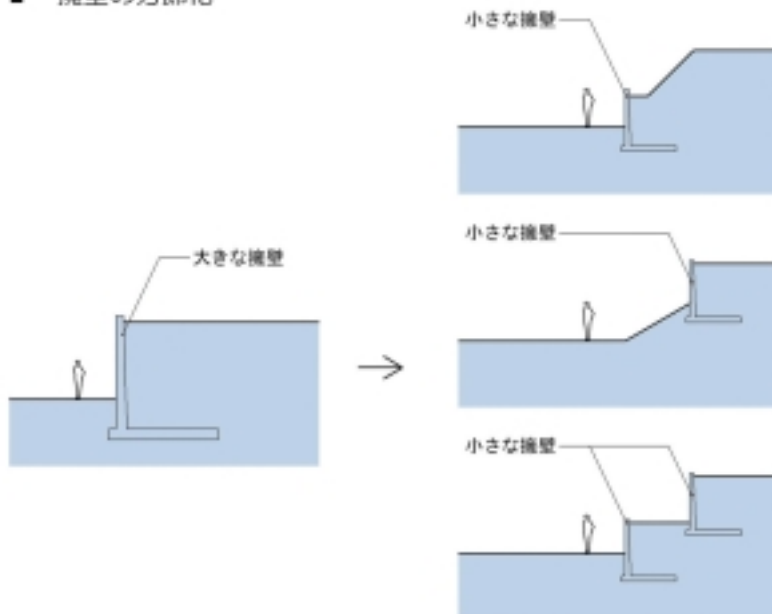
基準 1 - イ

擁壁やのり面が生じる場合は長大にならず、小さな擁壁やのり面となるよう地形の分節化を図る。また、のり面については緑化を図り、擁壁が生じる場合は、周辺の景観と調和した形態及び素材とするよう努める。

キーワード | 小さな擁壁

仲間地区は南西斜面に位置しているため、斜面地が多く、建築や開発行為等で擁壁が生じる場面が多々あります。また、造成などを伴う開発行為は見慣れた風景も一変する行為にもなりかねないため配慮が必要となります。そのため、擁壁やのり面が生じる場合は、圧迫感が生じる長大な擁壁を設けず、スケールを落とした小さな擁壁としたり、のり面とすることで、元の地形に馴染んだ、なだらかな造成を行います。また、周辺環境との調和を目指し、琉球石灰岩や石灰岩調などの見慣れた素材や緑化できる擁壁等を使用し良好な景観形成に努めます。

■ 擁壁の分節化



のり面がなだらかな風景をつくった良い事例。



擁壁を2段に分節化を図ることで、心地良いスケールとなっています。

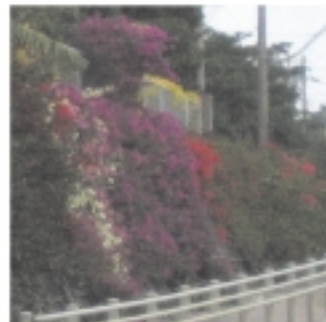
■ 素材感や緑による修景



琉球石灰岩調による修景



緑化ブロックによる修景



緑化による修景

基準2

地区内においては、斜面緑地を活かすよう努めると共に、主要な視点場から地域のシンボルである浦添グスクを中心とする斜面緑地の眺めを遮断しないように努める。

キーワード 視点場とグスクの緑

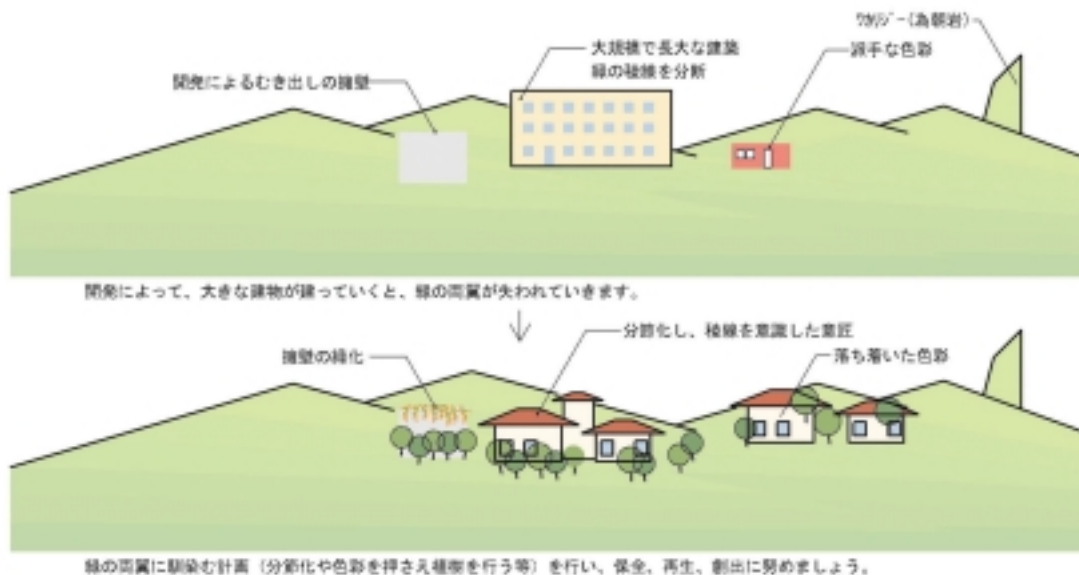
浦添グスクの豊かな緑は「緑の稜線」として市民に親しまれており、開発により分断されたり、緑が減少するのを防がねばなりません。主要な視点場である市役所や経塚の碑等は多くの人が気軽に訪れる場所であり、本市の魅力を伝える場所でもあるため、仲間地区での開発は規模を抑え、形態を分節化し、山並みに合わせた意匠を行い、色彩を抑え、緑を保全・再生し、視点場とグスクの緑との調和を目指し、未来の子供達に残し伝える景観にしましょう。

■視点場（経塚の碑）からグスクの緑を望む



■周囲の景観と調和した規模・形態・色彩

- ・ 建物の規模が大きくなるのであれば分節化を行い、スケールを抑えます。
- ・ 屋根も緑の稜線に合わせた屋根形状とすることで、馴染んだ景観となります。
- ・ 緑や周囲の建物に配慮した色彩が求められます。



■既存木や緑地をできるだけ残す

- ・ 既存木を残した計画や移植を施す計画としましょう。
- ・ 造成や築造で失われた緑地は、外構や壁面緑化等で回復するように努めましょう。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

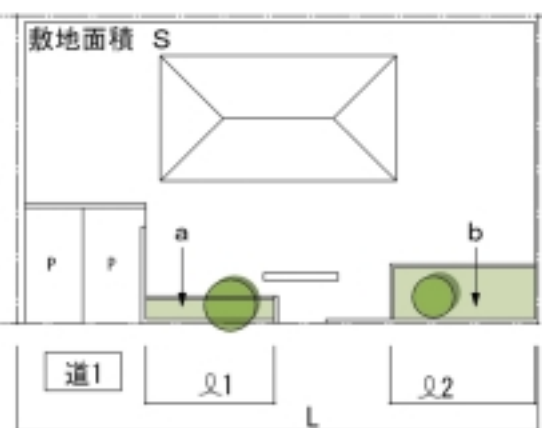
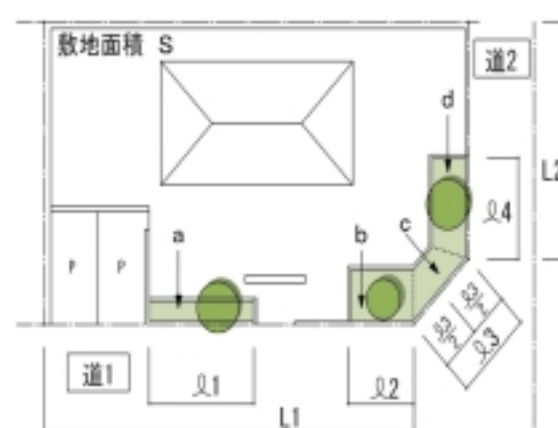
基準3

原則として開発による各宅地には、各宅地面積の5%以上の植栽が行われるスペースを設け、間口 1/4 以上を道路に面するよう配置する。

キーワード 緑地の確保

南西斜面に位置する仲間地区での開発行為は大規模な造成により、クサティ森(ムイ)や緑の稜線などの地域資源も失われる恐れもあります。そのため豊かな緑の保全と再生を目指し、緑地の確保に努めます。その場合、原風景の創出を意識し、琉球松やタブの木や在来種等を植え、仲間地区らしさも育てます。また、緑を広い視野で捉えた、緑視率（見た目の緑の量）や緑被率（緑の覆う量）についても考慮が必要です。

■緑地率の算定例

1 面道路の場合	2 面道路の場合
	
●必要な緑地面積 $S \times 5\% < a + b$ ●必要な間口の緑地距離 $L \times 1/4 < (a1 + a2)$	$S \times 5\% < a + b + c + d$ $(L1 + \frac{L2}{2}) \times 1/4 < (a1 + a2 + \frac{a3}{2})$ $(L2 + \frac{L1}{2}) \times 1/4 < (a4 + \frac{a3}{2})$

- ・奥行き2m以上の緑地面積が確保できる場合は、高木を選定することで、通りも緑陰が形成することができます。

■生垣のある潤いある通り



通り沿いを緑化することで、潤いある通り景観が形成されます。

■塀と道路の間



敷地境界沿いに塀を設けるのではなく、10cmでも後退し、植栽を設けることで通りが豊かになります。

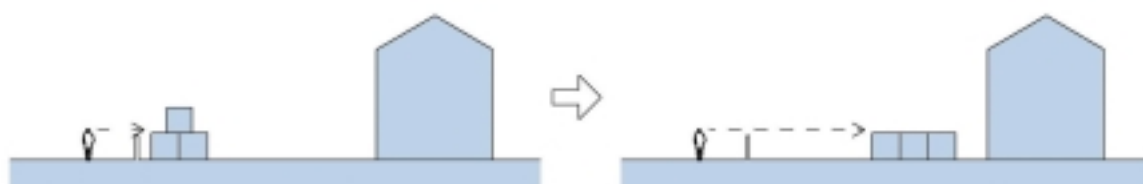
4 屋外における土石、廃棄物、再資源その他の物件の堆積

基準 1

屋外での物件等の堆積は道路などの公的空間や主要な視点場から離れた位置で行い、積み上げに際しては、高さをできるだけ低くするよう工夫する。

キーワード 堆積の方法

屋外に野積みされたスクラップなどの廃棄物や建設資材等は、周辺の景観と不調和を来すばかりか、景観を阻害することが多々あります。そのため周辺道路からできるだけ離れた場所に集積・貯蔵を行い、通り景観にゆとりをもたせるように工夫します。また、積み上げ高さもできるだけ低く行うことで、通り景観や遠くの視点場からも見えないよう堆積の方法を工夫することで修景に努めます。



物品等が道路沿いに高く積んであるため、危なく見だ目にも良くない。

通り沿いから離れた位置とすることで視界が広がり、ゆったりとした通りとなります。



乱雑な建設資材や高く集積した土壌等も景観を阻害します。

資材の整理整頓を行い、土壌等も低く集積しすることで、通り沿いにゆとりある空間形成と、遠くの視点場から望んだ際の景観も阻害しないよう景観の工夫を行います。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

4 屋外における土石、廃棄物、再資源その他の物件の堆積

基準2

屋外への物件等の堆積は目立たないように配置し、常に整理整頓を心がけ、植栽や修景された塀等で遮へいに努める。

キーワード 遮へい

屋外での集積・貯蔵は物品の出し入れに便利な道路隣接地で行われることが多いことから、連続した沿道景観を分断する。このため、集積・貯蔵物が周辺道路から見えないように遮へいする必要がある。その際には、樹木による緑化や周辺景観に馴染んだ塀などによって良好な景観の形成を図っていくことが求められる。



道路沿いに集積物があるため、圧迫感のある通りとなります。

集積物を高く積まず、また、緑化などで修景を行うと潤いのある通り景観となります。



緑で遮へいすることで良好に修景を行っています。

基準 1

掘採または採取後の跡地は、植栽等で修景を行い、周辺景観に配慮すること。

キーワード 跡地の修景

土地の開墾、土石の採取、鉱物の掘採等の行為は地形の改変を伴い、跡地が無残で山肌が露出したままの状態が多々あります。そのため植栽の樹種や樹形等を考慮し、周辺の自然植生と調和した緑化を行うことが求められます。緑化は砂ぼこり等が飛び散るのを抑え、土砂の流出を防ぐ為にも有効となります。また、採取期間も長期にわたることから、採取が完了した地区から随時跡地の修景に努めます。



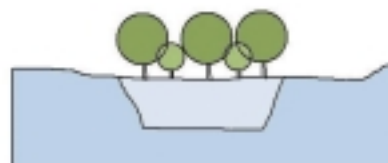
鉱物を採取することで、むき出しになった山肌は景観的にも痛々しく感じられます。



土質の流出を防ぐ為にも採取が完了したところから緑化を行い修景します。



開墾、採取、掘採することで地形が改変されたままでは、世代を超えた原風景の共有もむずかしくなります。



できるかぎり、元の地形となるように努め、次の世代に受け継ぐように修景します。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

5 土地の開墾、土石の採取、鉱物の掘採

基準 2

道路などの公的空間や主要な視点場から目立たないように植栽や修景された塀等で遮へいに努める。

キーワード 遮へい

土地の開墾、土石の採取、鉱物の掘採等は規模が大きく、山肌がむき出しになるなど、周辺の景観を阻害している場合があります。そのため、採取場所が周辺道路から目立たないように遮へいする必要があります。遮へいする方法として、宅地入口付近と外周部を重点的に、塀、生垣等、樹木等により遮へいすることで、近景としての道路などの公的空間や遠景としての視点場からの良好な景観の形成に努めます。



開墾、採取、掘採等の行為が目立つ景観は緑の山を侵食した無機質な風景となります。

近景、遠景からの景観にも工夫した植栽や塀などで遮へいに努めます。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

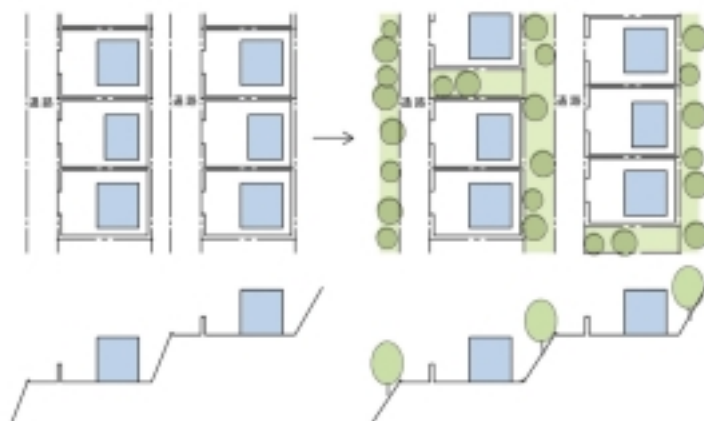
基準 1

墓園の建設などによる土地の形質の変更後は、原則として対象範囲の5%以上の緑地を設けることとし、主に外周部に樹木等による緑化修景を行うものとする。

キーワード 緑地の確保

緑豊かな浦添グスクは市民に潤いと安らぎを与えます。北側より浦添グスクを望むと、コンクリートで覆われた墓園が森を侵食しているようにも見えます。そのため、土地形質の変更後は、対象範囲の5%以上の緑地を設け、外周部にも積極的に樹木を植えることで緑地の確保を行い、グスクの森を守る工夫を行います。また、伝統行事である、先祖を供養する清明祭（シーミー）も緑豊かな環境で行うことができます。

■北側より浦添ようどれとワカリジー（為朝岩）を望んだ景観。墓園が浦添グスクの森を侵食しています。



斜面地でも緑地を積極的に整備し、植栽を施すことで、緑の保全・創出を行えます。



緑化修景が図られた墓園。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更

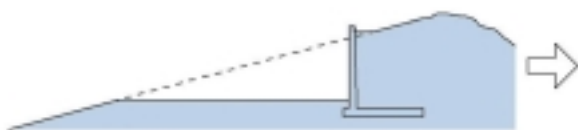
基準2

特徴ある地形を活かすよう工夫し、擁壁やのり面が生じる場合は長大にならず、小さな擁壁やのり面となるよう地形の分節化を図る。また、のり面については、緑化を図り、擁壁が生じる場合は、周辺の景観と調和した形態及び素材とするよう努める。

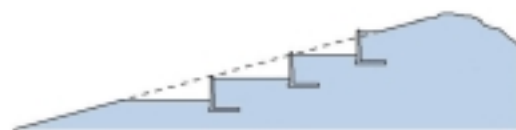
キーワード | 小さな擁壁

仲間地区は南西斜面に位置しているため、斜面地が多く、擁壁が生じる場面が多々あります。また、造成などを伴う開発行為は見慣れた風景も一変する行為にもなりかねないため配慮が必要となります。

擁壁やのり面が生じる場合は、圧迫感が生じる長大な擁壁を設けず、スケールを落とした小さな擁壁としたり、のり面とすることで、元の地形に馴染んだ、なだらかな造成を行います。また、周辺環境との調和を目指し、琉球石灰岩や石調吹付などの歴史的地区にふさわしい素材や緑化できる擁壁等を使用し良好な景観形成に努めます。



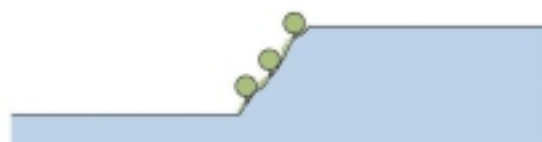
元の地形を大幅に改変し、長大で大きな擁壁を設けると圧迫感のある空間となります。



元の地形に沿うように土地形質の変更は小さな擁壁やのり面とすることで、なだらかな空間となります。



斜面地での造成では、のり面や擁壁が生じやすく、のり面の土が露出したままでは、土の流出、ほこりの飛散等もあり、景観上も好ましくない。



土地形質の造成中でも、環境に配慮し良好な景観形成のため積極的に緑化を図ります。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

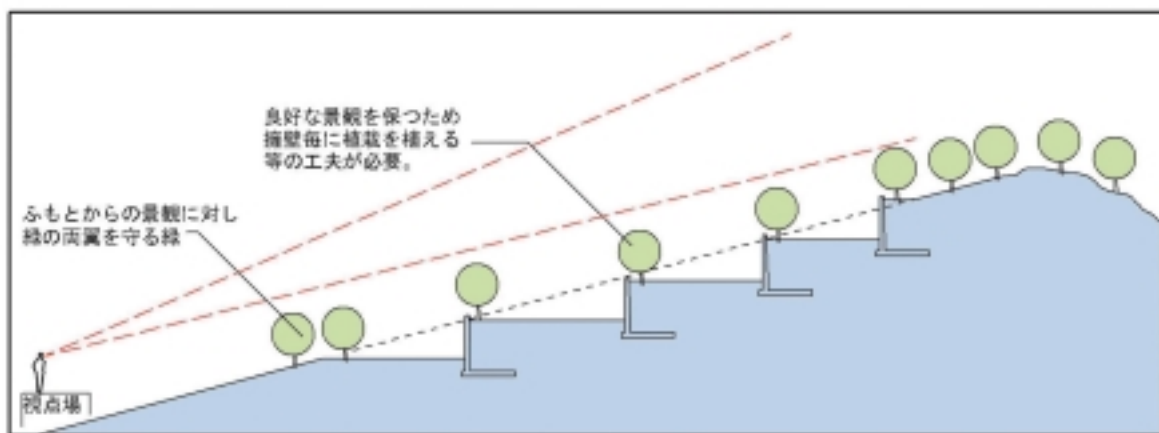
土地形質の変更

基準 3

地区内においては、斜面緑地を活かすよう努めると共に、主要な視点場から地域のシンボルである浦添グスクを中心とする斜面緑地の眺めを遮断しないように努める。

キーワード 視点場とグスクの緑

浦添グスクの豊かな緑は「緑の稜線」として市民に親しまれており、土地形質の変更により分断されたり、緑が減少するのを防がねばなりません。主要な視点場である市役所や経塚の碑等は多くの人気が訪れる場所であり、本市の魅力を伝える場所でもあるため、仲間地区での土地の形質の変更では、規模を抑え、形態を分節化し、山並みに合わせた意匠を行い、色彩を抑え、緑を保全・再生し、視点場とグスクの緑との調和を目指し、未来の子供達に残し伝える景観にしましょう。



元の地形に沿うように土地形質の変更は小さな擁壁やのり面とすることで、なだらかな空間となる。また、標高の低い側に、積極的に植栽することで、視点場からの景観にも配慮します。

位置

形態・意匠

色彩

素材

緑化等

屋外設備

開発行為

物件等の堆積

土地の開墾等

土地形質の変更



1. 仲間地区（伝統地域）における緑化の方法・・・54
2. 緑を広い視野で捉えた考え方について・・・56

Ⅳ. 参考

ここでは、仲間重点地域における植栽の方法を生垣、壁面、屋上や駐車場といった、その場所にあう具体的な植栽方法を取り上げ、緑化の方法を紹介します。

1. 仲間地区（伝統地域）における緑化の方法

（1）生垣及び屋敷廻り（接道部）の緑化

屋敷廻りや敷地の接道部では、これまで、ブロック塀、コンクリート壁及びフェンス等で各々の好みの囲いでもって形成してきたため、まち並みといった空間や景観を創ることができませんでした。しかし今後は基準も策定し運営されているため、伝統地域として、緑豊かな整備を図ってゆく方法を提案します。



地盤面の高さを段を設け緩和している。

□ポイント□

- ・壁面後退により接道部の緑化を行い、プライバシーとパブリックの融合を図ります。
- ・接する道路に歩道がある場合は、歩道と一体的な空間とします。
- ・緑陰や花などテーマを持たせます。
- ・壁を設ける場合は壁面緑化もあわせて行います。

※植栽の方法

- ・歩道に街路樹が植栽されている場合は、その街路樹と役割分担をする植栽とします。例えば、歩道の街路樹がしっかり緑陰を創っているなら、修景や美化につながるヤシや花木等を植栽すると良いでしょう。
- ・シンボル、又は、ランドマークとなる樹木を配し、その地域の顔を創ることも一考であります。交差点と接する場合は外周を石で囲えば、チンマーサにもなりえます。
- ・地盤面や斜面地では、擁壁が道路沿いに設けられる場合が多々あります。その場合に、敷地境界から10cmでもセットバックし、植栽のスペース設けることで、潤いのある景観形成に努めることができます。

（2）壁面緑化

近年は建物の大型化により、窓の無い大きな壁面や、無造作に高い擁壁で造成された、無機質なまち並みが形成されています。緑豊かなグスクをクサティ森（ムイ）とする仲間地区が先導的に美しいまちづくりを目指し、壁面に蔓（あし）や蔦（つた）植物を這わせ、覆うなどの壁面緑化により、花やみどりのある景観や環境に変えていくことが重要となります。



擁壁を緑化することで緑の環境を提供しています。

□ポイント□

- ・それほど管理手間はかからない植物の種類を選ぶのが肝要です。
- ・わずかな緑化スペースでも植栽可能な植物を選ぶのが重要です。

※植栽の方法

- ・既設の壁面は、蔓や蔦で覆うと一層みどり豊かな環境となります。アラマンダやブーゲンビリア等の花物で飾ることで、通りのイメージを明るく華やかにすることができ、道路利用者や地域住民に親しまれる通りとなります。

※植栽スペースの確保

- ・一般的な土木施設の整備では、擁壁が道路沿いに設けられる場合は、境界沿いに設置する例が多いのですが、幅10cmでもセットバックし、スペースを設けることで緑の景観形成に努めます。

※土壌と土壌改良

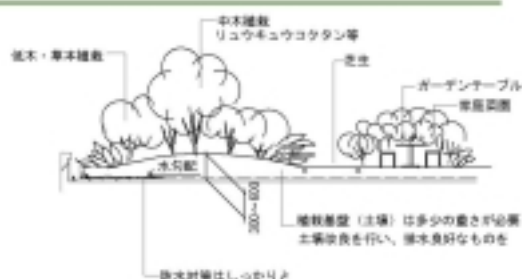
- ・植栽にもちいる土壌は、酸性土壌の国頭マージやアルカリ性土壌の島尻マージがありますが、蔓植物はそれほど土壌を選びません。いずれの土壌においても、植え付け前に土壌改良材を混入（80～120kg/m³）します。

※植栽と管理

- ・植え付け時期は春先（3～5月）が良く、なるべく梅雨が終わるまでには植え付けます。植栽間隔は20～50cm程度で、なるべく擁壁近くに植え付けます。伸張が始まると、絡み型や巻きつる型は金網やネットに誘引・結束して意図する方向へ伸張させる必要がありますが、吸着型と着生型のものは、そのまま生長させると良く、管理手間をあまり必要としません。

(3) 屋上緑化

屋上緑化は、都市部におけるヒートアイランドの防止策の一つとして行われます。また、景観の観点からも仲間地区を望める「視点場」（浦添市役所や、経塚の碑）や将来、モノレールが延伸した場合の「俯瞰景」（見下ろした景観）に備え、庭園や大型コンテナ（プランター）、地被類等による整備が望まれます。



(4) 駐車場緑化

車社会といわれる沖縄において、駐車場は欠かせない施設であり、浦添グスクやようどれの整備に伴い、合わせて駐車場の整備も必要となります。また、仲間地区は共同住宅等も多く、無機質なアスファルトのみで舗装された駐車場も多いため、駐車場の緑化は、涼しく、潤いある環境形成とグスクの森を守る方法としても意識して取り組むことが望まれます。



ポイント

- ・なるべく大きく茂り、陰を創る樹種を用います。（根が植樹枿を壊すことなく伸張すること）
- ・駐車場の緑化（芝ブロック設置等）を行います。

※敷地と緑化スペースの確保

大きな駐車場を設ける場合には、植栽帯や芝生等を設け、みどり豊かな景観や環境づくりを行います。

※その地域の風環境にあったものであること

風環境とは、海浜と内陸では潮風の影響が異なり、樹木も樹種により潮風による抵抗力（「耐潮性」という）には差異があるため、それを判断して選定することが肝要となります。

※植樹樹の規格

植樹樹は樹木が育つのに必要な植栽スペース（植樹枿）として、1.5×1.5×0.6（深さ）以上確保します。

仲間地区における緑化用植物一覧表

類型	樹 種 名（和名）	科名	生垣、 屋敷	壁面 緑化	屋上 緑化	駐車場 緑化
高木	イヌマキ	マキ科	○			
	リュウキュウマツ	マツ科	○			○
	オオハマボウ	アオイ科				○
	テリハボク	オトギリソウ科				○
	フクギ	〃	○			
	リュウキュウコクタン	カキノキ科	○		○	
	タブノキ	クスノキ科	○			○
	ガジュマル	クワ科	○			○
	サガリバナ	サガリバナ科	○			
	ヤブツバキ	ツバキ科	○		○	
	アカギ	トウダイグサ科				○
	ツゲモドキ	〃	○			
	ウバメガシ	ブナ科	○		○	
	パンジロウ	フトモモ科	○			
	ホルトノキ	ホルトノキ科				○
	イスノキ	マンサク科	○			
	ヒラミレモン（シークァーサー）	ミカン科	○			
	ヤマモモ	ヤマモモ科	○			
	コバテイシ	シクシン科				○
	ヒカンザクラ	バラ科	○			
	サルスベリ	ミソハギ科	○			
	コクテンギ	ニシキギ科	○			

中木	サンユウカ	キョウチクトウ科	○			
	マサキ	ニシキギ科	○			
	ネズミモチ	モクセイ科			○	
	ザクロ	ザクロ科	○			
	オウゴチョウ	マメ科	○			
低木	ブッソウゲ（ハイビスカス）	アオイ科	○		○	
	クチナシ	アカネ科	○			
	サندانカ	〃	○		○	
	ゴモジュ	スイカズラ科	○		○	
	オキナワツゲ	ツゲ科	○			
	ケラマツツシ	ツツシ科	○			
	クロトン	トウダイグサ科	○		○	
	シマヤマヒハツ	〃	○		○	
	ハリツルマサキ	ニシキギ科	○		○	
	ナンテン	メギ科	○			
	シャリンバイ	バラ科	○		○	
	ゲッキツ	ミカン科	○		○	
	フクマンギ	ムラサキ科	○		○	
ツル類	イカダカズラ（ブーゲンビリア）	オシロイバナ科		○	○	
	オオバナアリアケカズラ	キョウチクトウ科		○	○	
	オオイタビ	クワ科		○		
	ヒハツモドキ	コショウ科		○		
	カエンカズラ	ノウゼンカズラ科		○		
地被類	コウライシバ	イネ科	○		○	○
	セントオーガスチン（イヌシバ）	〃			○	○
	ヒメキラソウ	シソ科	○		○	
	リュウノヒゲ（ジャノヒゲ）	ユリ科	○		○	
草本類	ツワブキ	キク科	○		○	
	タマシダ	シノブ科	○		○	
	ゲットウ	ショウガ科	○		○	
	シマオオタニワタリ	チャセンシダ科	○		○	
	テッポウユリ	ユリ科	○			
	トラノオ	〃			○	
	ノカンソウ	〃	○		○	
ヤシ類	ビロウ	ヤシ類	○			
	ヤエヤマヤシ	〃	○			
	ヤマドリヤシ（アレカヤシ）	〃	○			
特殊類	ソテツ	ソテツ科	○		○	
	ババヤ	ババヤ科	○			
	バナナ	バショウ科	○			

2. 緑を広い視野で捉えた考え方について

1. 緑被率

緑被率は緑地面積と樹木の投影面積の和を敷地面積で除した割合をいい、緑地面積が十分に確保できないような都心部において有効で、樹木をみどりの量として評価することで、望ましい景観に近づけることができます。

2. 緑視率

正面からみた構図に占めるみどりの比率のことで、予想される完成形を基準に割り出した数値。沿道に植栽スペースを配することがまち並み景観に寄与します。また、立体的な緑を評価でき、沿道景観における、緑の像を具体的に確認できます。

おわりに

本書は、平成19年度に策定された、「浦添市景観まちづくり計画」における景観まちづくり仲間重点地区の景観形成基準の解説書として、浦添市景観まちづくり審議会の委員を中心に浦添市景観まちづくりアドバイザーと地元建築士会浦添・西原支部の諸氏により浦添市景観まちづくり審議会_専門部会を設置し、様々な角度からの意見を頂きながら作業を進めました。ここに、つたない事務局を終始温かくサポートして頂いた委員の皆様には心より感謝を申し上げます。

浦添市景観まちづくり審議会_専門部会委員名簿 (順不同 12名)

	氏 名	所 属	備 考
1	いけだ たかゆき 池田 孝之	琉球大学教授	景観まちづくり審議会会長 (都市計画)
2	ひ せ ひろこ 横瀬 ヒロ子	沖縄県技術士会顧問	景観まちづくり審議会副会長 (地域計画)
3	ともよせ たかし 友寄 孝	沖縄建設弘済会技術環境研究所	景観まちづくり審議会委員 (土 木)
4	あさと なおみ 安里 直美	琉球大学非常勤講師	景観まちづくり審議会委員 (ランドスケープ)
5	こばやし ふみお 小林 文男	沖縄県建築士会浦添・西原支部	景観まちづくり審議会委員 (建 築)
6	やびく つとむ 屋比久 勉	てだこ緑花会	景観まちづくり審議会委員 (造 園)
7	ひ が ゆうかい 比嘉 宥海	まちづくりてだこ市民会議	景観まちづくり審議会委員 てだこまちづくり市民会議
8	めかる まさやす 銘苅 正康	景観まちづくりアドバイザー	建 築
9	きのした のりこ 木下 能恵子	景観まちづくりアドバイザー	地域計画 ランドスケープ
10	かかず ちようき 賀数 朝規	沖縄県建築士会浦添・西原支部	建 築
11	かかず ようこ 賀数 洋子	沖縄県建築士会浦添・西原支部	建 築
12	いけま まる 池間 守	沖縄県建築士会浦添・西原支部	建 築



写真：浦添市景観まちづくり審議会_専門部会の状況

事務局

1	おおしろ せいじ 大城 盛次	浦添市 美らまち推進課 技幹
2	とのしろ ひろし 登野城 寛	浦添市 美らまち推進課 景観まちづくり係長
3	なかにし ひろみつ 仲西 広光	浦添市 美らまち推進課 景観まちづくり係 技査
4	ちばな たけひこ 知花 竹彦	浦添市 美らまち推進課 景観まちづくり係

1	こばやし ふみお 小林 文男	(株) ワールド設計
2	きんじょう まさき 金城 昌樹	"
3	うちだ えいじ 内田 栄司	(株) パウ設計集団
4	のざわ こういち 野澤 康一	"
5	かめざき さちえ 亀崎 幸恵	"
6	おおなか ひでひこ 大仲 英彦	(有) スタッフ オズ
7	いさ あきの 伊佐 愛乃	"

「景観形成指針（建築編）策定」（景観まちづくり仲間重点地区） 平成 22 年 2 月

浦添市役所 都市建設部 美らまち推進課 景観まちづくり係

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶 1 丁目 1 番 1 号 / TEL : 098-876-1234 (内線 4064)